



TITLE:

「日本経済統計資料総合目録」編集作業室(2)農林統計について(経済統計特集)

AUTHOR(S):

水野, 孝夫

---

CITATION:

水野, 孝夫. 「日本経済統計資料総合目録」編集作業室(2)農林統計について(経済統計特集). 経済資料研究 1980, 14: 43-45

ISSUE DATE:

1980-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/79729>

RIGHT:

「日本経済統計資料総合目録」編集作業室（2）

農林統計について

——『日本経済統計資料総合目録  
農林業編』の編集を終えて——

水 野 孝 夫<sup>\*</sup>

経済資料協議会（以下「協議会」と略す）によって企画された『日本経済統計資料総合目録』（以下『総目録』と略す）の編集作業経過と若干の感想を述べたいと思います。

この『総目録』の編集計画を大きく分けると三つの分野となる(1)生産統計、(2)流通統計、(3)社会・労働統計である。(1)生産統計は農林業編と鉱工業・エネルギー産業編の二つで、われわれが担当したのは農林業編である。

昭和44年より編集作業が開始され、大阪市立大学経済研究所によって農林業編・予備版（1360アイテム、74p 昭46・11刊；追補192アイテム、9p 昭47・11刊）が既存の目録を中心として作成された。

この予備版に基いて「協議会」加盟機関へ所蔵・補充・補正調査を依頼した。編集作業班は名古屋学院大学・大阪市立大学経済研究所・京都大学経済学部・同経済研究所である。編集センターは京都大学経済学部に設置された。

昭和48年10月第1回編集会議（於京都）が開かれ、記入細則が決定され、所蔵・補充調査されたものを編集作業班で分担し、各自のルーティン・ワークと並行して作業に入った。

さて所蔵調査がなされたが第一に調査対象年次と刊行年との混乱が生じた。これは実物を調べると理解できるが明治後期・大正・昭和初期の統計資料の中には調査対象年次しかないもの、刊行年が表紙に記載されているものなど実にさまざまな資料がある。また細かいことをいうと、年、年度、年版、年度版の区別が曖昧になっていた。第二に原本、複製版、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、私製コピーなどさまざまな形態での混同が発見されていく。第三に予備版が既存の目録等により編集されたため、採録されたものがほんとうに統計資料かどうかを実物を手にして判定することである。また地方統計・月報類は除くとの採録基準にそって採録

<sup>\*</sup>みずの たかお 京都大学経済研究所

の可否を決定して行った。これらの疑問点を一つ一つ実物調査や調査票（郵便）や電話による調査によって、より確かなものにすることが編集作業の第一歩であった。そして最大の困難は変遷調査であった。内容が継続していても標目が違う資料が予備版の中に散発的に入っていたり、書名・刊行年は同じでも標目の取り方が違うなどして、同一資料が重複して採録されていたりした。こうして採録した統計資料は農商省＝農林省という国の機関と帝国農会などの全国組織をもつ農業団体の刊行物が主力となるので名古屋学院大学によって編集作業の道具として官庁機構の変遷が調査された。官庁資料の中には「××局」や「〇〇課」のみしか記載されておらず標目を機構図に基いて補記する作業も行った、また一つ一つ凡例を読んで変遷のつづきぐあいを調査した。農林統計はなかなか一筋縄ではまとまらない。農林行政の歴史が機構の変遷となり、統計資料もそれにともなって変化しているのである。

また農林統計の大きな柱である農家経済調査・農産物生産費調査についても複雑に変遷しているので大阪市立大学経済研究所によって調査され、表にされた。これらの調査表は『参考資料』（52p, 1977. 3刊）としてまとめられた。

さらに「協議会」加盟機関に実物がなく調べられない資料については国立国会図書館参考書誌部経済社会課の手を煩して、書庫の内に入って実物を手に取って調査した、また農林省農業総合研究所や一橋大学附属図書館にもお邪魔して直接書庫にて調査した。ここに関係各位にお礼申し上げます。だが比較的多く資料を所蔵しているはずの大学図書館が書庫スペースの狭隘さや専門スタッフの不足等々によりカード目録化されていても実物を手に取って調査出来なかったことは残念であった。これは『総目録』の精度の限界を象徴していると共に今後予想される全国的な相互協力体制への課題であると思われる。

永いブランクの後、昭和51年度には『経済学文献季報』の編集センターを京都大学が担当したので『総目録』編集センターは名古屋学院大学へ移され、合宿も行って、さらに調査と調整がなされた。

昭和52年度には本体カード、変遷表、回次表、所蔵カードの関係に斉合性があるかどうかを確認してゆく作業に膨大な時間を費した。また昭和52年5月の編集会議（於京都）にて鉱工業の所蔵編を計算機処理したものが報告された。また出版形態は農林業編と鉱工業編とは分冊出版されること、また書誌編と所蔵編も分冊とされた。

昭和53年度、出版助成金の交付を受け、農林業班も所蔵カードと回次表を北海道大学へ送り、北大・小樽商科大学との協力のもとに所蔵編が計算機処理された。

処理された所蔵編と書誌編との調整を何回も行い、また鉱工業編との調整も行った。そして本体カード、変遷表、回次表と書名索引・分類索引・凡例・前付け等々

を作成して出版社（同朋舎）へ渡された。昭和53年暮れから昭和54年正月にかけての校正では三校から念校まで行われた。そして600部印刷され、500部が製本されて2月末日出版された。10年仕事であった。

#### 参考資料

1. 日本経済統計資料総合目録 大正・昭和前期 生産統計 鉱工業・エネルギー産業編 第2次予備版「編集について」（前田昇三）参照 1975・3刊
2. 同上 明治42年～昭和22年 生産統計 農林業編 参考資料「農林統計資料論の一視角」（細川元雄）1977・3刊